

私達に託された未来

板橋区立赤塚第二中学校 2年 丸山 心由宇

「楽しかったね。」私は、帰り際に友達と笑みを浮かべながら移動教室の思い出話に浸った。昔から仲が良いその友達と一緒に帰るときはいつも移動教室の話になる。移動教室では、普段行けない遠い場所に行き自然を味わい、宿に泊まって友達と寝食を共にする。この行事は私達にとって楽しい時間であるとともに貴重な経験であり、勉強以外の部分でも沢山のことを学べる。だから、私はこの行事が大好きで毎年楽しみにしているのだ。

以前、移動教室から帰宅した際に母に「移動教室の費用の多くは区からの援助で板橋区の税金なんだよ」と言われた。移動教室の費用は多額なので私はそのことを知り、驚いた。同時に板橋区は未来を担う子ども達に税金を使って応援をしているのだと感じた。思い返すと、教科書も運動器具も国や市区町村からの援助なのだ。学校がきれいで安心安全に保たれているのも区の税金による管理があるからだ。そして、いつも丁寧に勉強を教えて下さったり、相談にのって下さったりする先生方も税金から給料が支払われて働いてくださっている。私達が「日常」だと感じている学校生活は税金なしでは成り立たないものなのだ。もちろん、税金は私たちのためだけではなく、社会保障費や国債費などと比較すると割合的には小さい。だが、お金を生み出さない子どもたちに一人当たり年間約百万円もの援助を送っていることは、子どもたちへの期待の意味が込められていると思う。税金によって私たちが豊富な経験をしたり、学んだりする機会をつくり、将来の日本を支えていく大人を育てているのだと思う。そして、今の大人が高齢者となり、私達が働き手となった際に、経済を動かせるように今様々なことを学んでいるのだ。勉強だけではない。人とのコミュニケーションの取り方、自由と責任などを授業や行事を通して、社会に出てから必要となる能力を身につけているのだ。私達に求められていることは、勉強したことや自分の経験を社会に出たときに生かして良い影響を世の中に与えていくことだと思う。

だから、私達は目の前のこと一つ一つに真剣に取り組んでいかなければならない。学校生活は、当たり前のように過ぎ去っていくが感謝の気持ちを忘れずに、些細な出来事も大切にしていきたい。大人が私達に費やしているお金と時間を無駄にしないために、そして私達に対する期待を裏切らないために、ステップを踏みながら成長していきたいと思う。私達が大人になり私達を支えてくれた人たちの生活を支えることで恩返しができる。それまでは、自分の学びを深めること、視野を広げることに努め、より良い日本の社会を築いていきたいと思う。毎日を一生懸命に生き、自分のできることを最大限行い、行動の幅を広げていきたいと思う。未来の日本を支えることが次の世代の中心となる私達の使命なのだ。